

諏訪春雄、菅井幸雄編。

荒井良雄・滝静壽・佐々木隆、日本における西洋演劇、pp.365-374

概要

明治期・大正昭和戦前を中心にした西洋演劇受容史。演劇改良運動、文芸協会、築地小劇場、日本の近代劇運動がその中心となった時に、シェイクスピア、モリエール、イプセン、ワイルドなどを中心にその受容の状況を論じた。翻訳・上演を中心に書誌や記録を辿りながら、特に坪内逍遙の役割の大きさを再認識することになった。最近の傾向としては、日本の経済状況と劇場との関係などについても触れ、日本生まれのオペラや新劇など、外国への発信型の作品や上演、演劇を通しての国際文化交流の可能性を今後の展望とした。

(A5)